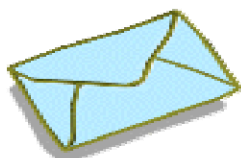


全国保健師長会
群馬県支部 **ミニつうしん**
平成28年度 第1号

発行日

平成28年8月1日

支部長 齋藤 綾子



支部長 あいさつ

支部長 齋藤 綾子

暑中の候、日頃、会員の皆様方におかれましては、保健師長会活動にご理解とご協力いただき、誠にありがとうございます。

去る6月4日(土)の平成28年度総会では多くの会員のご参加をいただきありがとうございました。また、今年度の支部会員数は前年度より8人増えて97人となり、特に市町村会員の増加がみられる等、会員拡大にご協力いただきまして、重ねてお礼申し上げます。

総会後の研修では、国立保健医療科学院の松本珠実上席主任研究官から「保健師の人材育成について」と題して保健師の人材育成の必要性と方向性、管理期にある保健師の力量形成について自治体保健師のキャリアダラーを示しながらご講演いただきました。ご講演の中でふれられた「保健医療2035提言書」や「保健師に係る研修のあり方等に関する検討会最終とりまとめ ～自治体保健師の人材育成体制構築の推進に向けて～」については、先生の資料とあわせてもう一度ご一読されると、人材育成について更に理解を深めることができるのではないのでしょうか。

今年度は、いよいよ北関東甲信越ブロック研修会が、9月24日(土)に群馬県高崎市総合保健センターを会場に開催されます。県内外保健師の活動報告発表や情報交換、全国保健師長会の活動・調査研究について本部役員による説明など、有意義な研修となるようただ今実行委員で企画しております。今後の活動の一助となりますよう、是非、ご参加ください。

今後も役員一同、会員皆様のご意見をいただきながら支部活動にとりくんでまいりますので、よろしく願いいたします。



○平成28年度の全国保健師長会活動方針については、以下のとおりです。

1 活動テーマ

“社会の課題に向き合う保健師活動の展開” —保健・医療・福祉をつなぎ、安心して健やかに暮らせるまちづくりの実現—として次の4項目を柱として活動します

- (1) 専門性の高い公衆衛生看護活動の強化
- (2) ブロック、支部活動の強化
- (3) 中長期的な展望に立った被災地における保健師活動の可視化および各自治体における災害時対策の取組の促進
- (4) 会員数の拡大

2 最重点活動目標

- (1) 保健師活動の可視化および質の向上への取り組み
- (2) 情報発信の強化
- (3) 災害保健活動の推進
- (4) 市町村の会員拡大に向けた取組

3 ブロック研修会

今年度の活動テーマは「地域における保健師の保健活動に関する指針」を活用した保健師活動の可視化と質の向上に向けた取組です。

研修会の内容は、「全国保健師長会活動方針の説明」「研究報告」「専門性の高い公衆衛生看護活動の強化につながる研修」です。

(詳細は全国保健師長会ホームページをご覧ください)



総 会 報 告

平成28年度全国保健師長会群馬県支部総会

日時：平成28年6月4日(土)10時～

場所：群馬県庁舎 29階291会議室

全国保健師長会群馬県支部総会の出席者は会員55名で、平成27年度事業報告、会計報告、会計監査報告、そして平成28年度事業計画、予算が承認されました。

総会後の研修会に参加された会員から、感想を寄せていただきました。

— 研修会に参加して —

感 想

市 保 健 師

平成28年6月4日に全国保健師長会群馬県支部総会が開催され、その後研修会として国立保健医療科学院 生涯健康研究部 公衆衛生看護学領域 上席主任研究官 松本珠実先生よ

り「保健師の人材育成」について御講演がありました。

冒頭で、保健師が元気でない地域住民は元気になれない。保健師が元気になるためにはどうしたらよいかを考える仕事をしていると話されていました。

保健師を取り巻く環境は、2025年の超高齢化社会における健康課題をはじめ、活動の場が多岐にわたり変革しています。

その中で、健康課題に立ち向かうため健康・福祉・医療をシステムで考えるための地域ケアシステムの構築。そして支える人を創るための地区組織活動の育成、ソーシャルキャピタルの醸成。ヘルスリテラシーとして情報を収集し理解して行動に移すために学校保健や産業保健との連携等が保健師の大きな役割であるとお話がありました。

そして、保健所の保健師は、スペシャリスト（感染症・精神保健等権限を持ち広域で活動）。市町村の保健師は、ゼネラリスト（あらゆる健康問題に対応し地域単位で活動）をめざし、その中で保健師はリーダーシップ機能を発揮するために活動していきます。そして変革期だからこそよりリーダーシップ機能が重要なものになってきます。

また、管理期にある保健師は、地域住民の健康レベルの向上を常に念頭に置き、組織人として何をしなければならないのかを考え、組織として健康課題の解消を達成するリーダーシップ・マネジメントが必要となるとお話がありました。

松本先生のお話を聞き、自分の職場に人材育成の段階をどう落とし込んで土台づくりをしていくか。人材も市の財産としてどう育てていくべきか。など多くのことを学び、気づくことができました。

今後、庁内の他部門の保健師との情報交換を密にし、人材育成の体制づくりの構築が必要だと感じ、対応できることから始めたいと思います。ありがとうございました。



感想

県 保健師

国立保健医療科学院の松本珠実先生に、保健師の人材育成に関する（その必要性や今後必要となる力量や方向性）、現状と課題についてご講義をいただきました。

健康課題に立ち向かう公衆衛生看護の役割は、健康格差を解消すること。そのために、システムで支え、支える人を育成し、関係機関と協働することが必要と伺いました。世間には健康情報があふれています。保健師自身が研鑽を積むことは勿論のこと、住民ニーズ

に応えるため、いつでも、保健師誰でもが対応可能なシステムが必須と感じています。奇しくも群馬県保健師は、五十歳代が約半数を占め、保健所配置が三～五人という厳しい現状があります。多岐にわたる業務により業務担当制が主流となったことは、スペシャリスト育成には適当ですが、地域全体の健康問題を把握した公衆衛生活動や個から家族、家族から地域と広げる予防活動など、あらゆる健康課題に対応している市町村支援で、県保健師の広域支援の視点が欠けると市町村からの信頼が薄れ、極論、保健所不要論が発せられることを懸念してしまいます。

また、変革期のリーダーシップとマネジメントが重要とのことが印象に残っています。地域包括支援の重要性が示されている今、保健師間の絆を強めた組織力強化と保健師活動の継承を職場内外の研修で教育すること等、若き保健師たちが活躍できる場を増やせるよう、リーダー保健師たちの役割は大きいと思います。後輩たちの成長により、今後の私達の生活が大きく変わるかもしれません。「保健師をされていてよかった。」と思い卒業していけるよう、残された時間で自身もさらに力量を高めたいと思います。今後も健康管理を万全にして、「自分にできること」、「自分に求められていること」に向き合って業務遂行したいと、初心に戻り業務にあたりたいと思います。



28年度が始まって早々に熊本県を震源とする地震災害があり、避難所の健康管理支援で保健師等の派遣がありました。現地で活動された方、派遣調整をされた方、派遣者を出した所属の皆さま、大変お疲れさまでした。今後は派遣する側でなく、被災を想定して協力者等を受け入れる側としての調整や準備が必要になります。

9月24日(土)は、北関東甲信越ブロック研修会があります。参加申込報告は8月8日(月)までです。他県支部の方が来県しますので、会員の皆さまのご参加、ご協力をお願いします。